

金城学院中期計画

(2025年度～2029年度)

2025年3月24日

学校法人 金城学院

第4期中期計画(2025年度～2029年度)

建学の精神

金城学院は、1889年、静養のために日本に寄港したアメリカ人宣教師アニー・ランドルフが、日本における女性への教育に対する社会的認識が低いことを憂い、私費を投じて私塾を開設し、福音主義キリスト教に基づく専門知識と全人教育を実施したことに始まります。

金城学院の使命

金城学院の使命は、建学の精神である福音主義キリスト教に基づき、「主を畏れることは知恵の初め」をスクールモットーとし、真理の探究を行うとともに、全人教育を行い、真理と正義を愛し、世界的な格差にも目を配りつつ、世界の平和と人類の福祉に貢献する品格を備えた女性を育成することです。

金城学院が創立された時代と比べると格段に男女差別は解消されつつありますが、いまだ男女間格差は存在しています。この格差を解消するためには、女性の地位の向上が必要です。そのために、女性の持てる力を発揮できるような教育を今後も推進していきます。

社会の一員でもある金城学院は、社会に貢献する必要があります。産業界や行政等と連携を図りながら、研究や社会連携を通し、また、社会人等に対して生涯にわたる多様な学びの場を提供することを通して社会に寄与しなければなりません。

中期計画項目

金城学院は、予測不可能な時代を切り拓く女性を世に輩出する総合教育機関であります。変革が続く社会では、女性教育に求められる視点は常に変化しています。

金城学院は、建学の精神を軸とした使命により、教育、成長支援、社会連携をもって、教育・研究・基盤の改革を推し進めていくことで、これらの変化へ対応する総合教育機関を目指します。

そのために第4期中期計画では、5か年の具体的な項目を計画します。

- 1 教育改革の推進
- 2 園児・生徒・学生の成長支援
- 3 社会連携の推進
- 4 環境の活用
- 5 基盤の再構築

大学アクションプラン

福音主義キリスト教の精神に基づいて予測不可能な社会と世界に対応できる「強く、優しい」女性人材を育成し、知を創造する学問の拠点、学術・文化の発信拠点、地域ネットワークの拠点となり、永続的な発展を続けるために、大学では、以下のアクションプランを推進します。

1 教育改革の推進

- ① 学修者本位の教育の推進
- ② 文理横断・文理融合教育の推進
- ③ グローバル化への対応
- ④ 研究力の向上

2 学生の成長支援

- ① 学生の成長を支援する体制の整備

3 社会連携の推進

- ① 地域社会および産官学連携による教育の推進
- ② 社会貢献活動の推進
- ③ 地域社会のニーズにあった教育の提供
- ④ 高大連携活動の拡大と深化
- ⑤ 同窓会との連携の強化

4 環境の活用

- ① 環境を活用した総合的な教育の実現
- ② 学びあうための学習環境の整備
- ③ ICT教育環境の整備

5 基盤の再構築

- ① 総合教育の実現を通じた KINJO ブランドの再構築と社会への浸透
- ② 外部資金研究の推進
- ③ 学生の受け入れの推進

中学校・高等学校アクションプラン

中学校・高等学校ではキリスト教の教えに基づき、先人たちが築いた伝統を尊重し教育を行う。また、新しい時代に向かってスクールビジョン「社会に開かれた、わたしをつくるアトリエ」を目指し、生徒一人ひとりの夢を実現できるように教育を行っていく。そのためにすべての教員が協力し、新しい教育観に対応し、革新的なアプローチを取り入れ、生徒が地域社会・国際社会に貢献できる女性のリーダーとなるための資質を培うアトリエとして、社会から認められる学校を目指す。また、少子化に伴い、次の時代に向けての本校の在り方を考える準備を始める。

1 教育改革の推進

- ① 生徒本位の教育の推進
- ② 探究活動の展開
- ③ ICT活用とデジタル教育の推進
- ④ STEM教育の推進
- ⑤ 国際教育の推進
- ⑥ カリキュラムマネジメントの推進

2 生徒の成長支援

- ① 進路希望の実現
- ② キャリアデザイン教育の推進
- ③ 教員の教育観の転換の推進
- ④ 不登校と相談室登校生徒の減少

3 社会連携の推進

- ① ボランティア活動の推進
- ② 大学・企業・他の機関との連携プロジェクト

4 環境の活用

- ① 学習環境の整備
- ② ICT教育環境の整備

5 基盤の再構築

- ① 学校規模の適正化
- ② 広報活動

幼稚園アクションプラン

不安定、不確実、複雑、曖昧な時代を迎え、今後の社会では子ども達は自分なりの判断基準(羅針盤)を持つ力が大事であると言われている。金城学院幼稚園はキリストの愛の基、次の時代にふさわしい「愛され、育ちあう。」園の在り方を目指していく。自分達で遊びを創り出し、そこに新しい価値を見出し、仲間と協同していく力、それらの力を使って実際に行動する力を育てるため今まで以上に「主体的、対話的で深い学び」を大切にしていく。また、ますます孤立しがちな子育てを支える園として地域や学院の各校とも連携しコミュニティの拠点となっていきたい。

これらの園の教育の特色を言語化、可視化し、確実な園運営につなげていくために以下のアクションプランを推進する。

1 教育改革の推進

- ① キリスト教主義に基づく園児本位の教育の推進
- ② 領域横断的な力を育む幼児教育の推進
- ③ 国際理解を深めるための教育
- ④ 幼児教育の質向上のための研究力の向上

2 園児の成長支援

- ① 園児の教学面の成長を支援する体制の整備
- ② 園児の生活面の成長を支援する体制の整備

3 社会連携の推進

- ① 地域社会および産官学連携による教育の推進
- ② 社会貢献活動の推進
- ③ 地域社会のニーズに合った保育の提供
- ④ 中高大との連携拡大と強化

4 環境の活用

- ① 環境を活用した総合的な教育の実現
- ② 学びあうための学習環境および人的環境の整備
- ③ ICT 教育環境の整備

5 基盤の再構築

- ① 園児の受け入れの推進
- ② 外部資金活用の推進
- ③ 総合教育の実現を通じた KINJO ブランドの再構築と社会への浸透

法人アクションプラン

今後の予測困難な環境下においても、持続可能な法人となるため、強固な経営体質、運営組織の確立を目指し、組織、人事、財務などの改革・改善を次の視点から検討し、実施する。

1 持続可能な経営・運営体制の確立

- ① 社会の要請に応じたガバナンス体制・危機管理体制の強化
- ② 事務組織改革・人事制度改革の推進
- ③ 戦略的広報体制の確立
- ④ 情報化戦略の策定と推進
- ⑤ 財政収支の改善